

済々黌高等学校 平成 28 年度学校評価計画表

<p><b>1 学校教育目標</b></p> <p>本黌建学の精神である三綱領          正倫理 明大義 (倫理を正しうし 大義を明らかにす)          重廉恥 振元氣 (廉恥を重んじ 元気を振るう)          磨知識 進文明 (知識を磨き 文明を進む)</p> <p>を根幹とし、生徒の輝く未来に向け、校長を中心とした指導体制のもと、節義を重んじ、人格や品性を高め、文武両道の気風を尊重し、一つ一つの教育活動を着実に実践し学校の活性化を目指す。</p> <p>生徒を育成するに当たっては</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 他者への思いやりを大切にし、社会に貢献する生徒の育成</li> <li>2 心身ともに逞しく豊かな人間性を備えた生徒の育成</li> <li>3 志を高く持ち、自ら求めて学ぶ生徒の育成</li> </ol> <p>を目指す。</p>
--

<p><b>2 本年度の重点目標</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 社会に貢献できる生徒（グローバルリーダー）の育成</li> <li>(2) 生徒指導の充実</li> <li>(3) 心身の健康の保持増進及び安全教育の徹底</li> <li>(4) 学力の向上</li> <li>(5) 進路指導の強化</li> <li>(6) S G H 指定校としての取り組み推進</li> </ol>
--

<b>3 自己評価総括表</b>						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学 校 経 営	建学の精神の継承	教育活動の中での三綱領の理念の実践	三綱領の精神を理解し、自らその実践に励む生徒を育成する。	・学校全体で取り組み、すべての教育活動の場で折に触れ意識させる。	B (3.2)	集会のたびに唱和しているが、実践につながるために理念についてさらに丁寧な説明し理解させる必要がある。
	S G H 事業の推進	グローバル人材の育成	S G H 事業をさらに魅力あるものに工夫する。	・企画委員会が立案し、学校全体で取り組む。	B (2.7)	毎年取組を進化させており、職員全体で関わる意識をさらに強めていきたい。
	学校の活性化	学校行事の工夫・改善	反省を生かし、取捨選択を意識して新たな内容を取り入れる。	・毎週運営委員会を実施し、十分な審議を行う。	B (2.9)	運営委員会での審議を通じ行事の工夫改善は行えたが精選に課題が残る。活性化を意識して取り組みたい。
	職員の資質向上	校内研修の充実	各学期複数回の校内研修を実施する。	・各々が立案し、学校全体で取り組む。	B (3.1)	校内の様々な課題に対して研修を行ったが、授業改善にもつなげていきたい。
	安全管理	施設・設備の保守・点検	危険箇所には迅速に対応する。	・報告、連絡、相談を確実に行う。	B (3.3)	震災対応等困難な部分もあったが、事務部との連携は円滑に行えた。
	言語活動の充実	グローバル社会をリードする人材育成の	論理的思考力、課題解決力養成のための言語活動を推進	・各学年で論理的思考力を伸ばす論文指導を推進する。	B (3.0)	論文指導は行っており思考力育成の意識は強いが言語活動や授業改

		ための言語活動の充実	し、授業改善にもつなげる。	・各教科で言語活動の充実に取り組む。		善につなげる意識を強めたい。
学 力 向 上	基礎学 力の充 実	学習時間の確保	平日2時間以上の家庭学習時間を確保させる。	・家庭学習時間調査を学期に1回実施し、その結果を面談等を通じて活用する。 ・学校全体で家庭学習時間の確保に取り組む。	B (3.0)	家庭学習時間については、教科・学年での取組もあり、一定時間の確保はある。しかし、学習不足の生徒も少なくない。クラスの雰囲気づくりとともに部活動顧問からの声掛けや個人へのきめ細やかな指導を通して、自発的な学習へ導いていく必要がある。
	わかる 授業・ 考える 授業の 創造	教師の指導力の向上	生徒の学習意欲を高める指導を実践する。	・研究授業または公開授業を年4回実施する。 ・生徒による授業評価を年2回実施し、結果を授業改善に活用する。	B (3.1)	研究授業後の教科会等での意見交換で、指導方針の確認・教材の精選が行われた。今後、生徒を予習復習を含めた自主的、自学的な学習に向かわせるような授業の工夫・改善が求められる。考査・大学入試の問題検討・問題作成を通して、指導方針の共有と指導力の向上につなげたい。
キ ャ リ ア 教 育 ( 進 路 指 導 )	生徒の 進路目 標の実 現	生徒の進路意識高揚に向けた取組の実践	講演会、出張講義などの充実とともに丁寧な個人指導を行う。	・SGの取り組みと連携し、各種講演会、大学学部学科説明会、出張講義を実施する。 ・的確な進路情報の提供を継続的に行う。 ・面接指導を充実する。	B (3.2)	地震の影響で日程や会場の変更等もあったが、各部と協力し、ほぼ、例年と同様に実施することが出来た。 生徒の進路意識を高め、学習意欲の高揚に繋がるような面談のあり方を工夫したい。
		教師の教科指導力の向上	難関大入試に対応しうる教科指導力をつけ、魅力的な授業・課外を実践する。	・教科、学年と連携を深め、情報を共有し、指導力の向上と継承に努める。 ・校内模試のさらなる充実を図り、その結果を活用する。 ・低学年での基礎学力の充実と家庭学習時間の確保に取り組む。	B (3.1)	校内模試は実施回数を増やすことが出来た。問題の質の向上に努め、生徒個々の記述力を測る指標としての精度を高めたい。 低学年時の基礎学力の定着と学習時間の確保は、学校全体の課題として継続して克服に取り組むたい。
		教師の進路指導力の向上	3年間を見通した進路指導の実践力をつける。	・校内で進路についての職員研修を実施する。	B (3.2)	様々な研修会に参加を促し、教科会や学年会で情報の共有を図った。

				・学年毎に、学力検討会や進路検討会を実施する。		研修会だけでなく日常的な業務の中で指導力の継承に努めたい。
生徒指導	济々覺生としての矜持を持たせる指導	徳育の推進	「他者を思いやる心」の育成を図り、社会的倫理観を醸成する。	・日々の生徒への声かけや講話を通して心の育成を図っていく。	B (3.1)	様々な手法を用いて心の教育を実践してきた。声かけも毎朝行った。
		基本的生活習慣と自己規律の確立	時間の厳守や端正な服装の徹底など基本的生活習慣を確立させる。	・共通理解のもとに一貫した服装・頭髪指導を継続して行う。 ・学校全体で登下校指導に取り組む。	B (3.0)	毎月の生活目標を設定したので、共通認識のもと指導に当たることができた。登校指導も全職員で行った。
	安全教育の徹底	交通ルールの遵守と安全意識の高揚	社会のルールや規則等を遵守する指導を行うとともに防犯意識を高める取り組みを実施する。	・交通LHR・交通講話・実技講習会を実施する。 ・生徒交通委員会を中心に二重ロック定着のための活動を行う。	B (3.0)	登校指導、交通委員の通学状況観察、講話などや、学校周辺の交通ハザードマップの教室掲示などを通して、生徒の安全意識は高まった。交通事故件数は、昨年より減少した。
人権教育の推進	豊かな人権感覚を身に付けた生徒の育成	知識的側面からの取組	人権教育における学習指導の工夫改善を行う。	・学期毎に学年研修を実施する。 ・対外的な研修会への参加を促す。	B (3.0)	職員への人権教育の研修会を実施し、グループ討議なども含め人権感覚の育成に努めた。
		価値的・態度的側面からの取組	生徒一人一人の心の内面に働きかけるような指導を行う。	・個に応じた指導を充実させる。 ・面談を充実させ、生徒・保護者からの相談に対応する。 ・生徒理解のための職員研修を定期的実施する。 ・人権教育推進委員会を適時開催する。	B (3.1)	生徒理解のための職員研修を年に2回実施し、生徒への共通理解を深めた。教育相談部会を定期的に行い、情報交換を行った。スクールカウンセラーは途中で交代されたが、連携を密にし、生徒たちの状況の把握に努めた。
	命を大切にする心を育む指導	教材の精選と職員の共通理解	関連する教科・領域等の学習を組み合わせ、多様な指導を実施する。	・全学年とも計画的に指導を行う。 ・指導の振り返り（感想の集約）を行い、次の指導につなげる。	B (3.0)	各教科の様々な場面で行った。今後はストレス対処教育のエンカウンター継続的な実施などを考えていきたい。
いじめ防止	積極的な啓発活動の実施	いじめをしない・させない・許さない態度を堅持させる指導を徹底する。	・4月にエンカウンターを実施する。 ・生徒会を中心とした啓発活動を推進する。 ・SNS情報教育講話を全学年対象に実施する。 ・いじめ防止対策委員会を年3回開催する。	B (3.2)	宿泊研修時にエンカウンターを実施した。クラス内の人間関係作りに役立った。小学校の校長先生によるSNS講演会を行った。いじめ防止対策委員会を年に3回実施し、本校の状況についてスクールカウンセラーを交えて話し合うことができた。	

止等	いじめへの迅速な対応	いじめの早期解決と再発防止	いじめまたはいじめを疑われる事態が発生した場合、被害・加害双方の生徒に速やかに対応、指導を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ人権アンケートを実施し、実態の把握と早期発見に努める。</li> <li>・いじめ対策委員会を開催し問題解決に尽力する</li> <li>・被害生徒・保護者に適切な報告を行い、加害生徒については事後も指導を継続する。</li> </ul>	B (3.3)	心のアンケートは課題がある生徒については、学年を中心に対応することができた。担任の先生方には事後に心のアンケートを細かく見ていただいたので内容の把握もできた。いじめ問題は皆無ではないので、今後も速やかに情報共有ができるように努めていきたい。
健康教育	健康で安全な生活を送るための実践力の育成	生徒の心身の健康管理と傷病予防	生徒が自身の健康状態を把握し、健康で安全な生活を送れるよう指導を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健便りを各学期1回発行し健康情報を提供する。</li> <li>・心と体の健康に関するアンケートを7月に実施し生徒の実態把握と生活指導に活かす。</li> </ul>	B (3.3)	保健便りで熱中症や感染症の予防を呼びかけ注意喚起をした。昨年度のアンケート結果と比較し、地震の影響の有無を検討した。地震後のストレスマネジメントなど生徒の心身の健康管理に努めた。
			震災後の生徒の心身の健康管理を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・面談やカウンセリングを通して、震災後の生徒の心のケアを継続的に行う。</li> </ul>	B (3.3)	スクールカウンセラーの来校回数を増やして対応した。今後も継続的に生徒の様子を観察していきたい。
	教育環境の整備	清掃指導の徹底と環境保全の意識や奉仕の精神の育成	毎日の清掃を生徒、職員全員で実施し、校内の環境整備を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美化委員による校内環境の整備を行う。</li> <li>・全職員による月1度の安全点検を行う。</li> </ul>	B (3.1)	地震後の校舎校内の安全点検を実施した。校内の環境整備に努めた。
図書館教育	読書習慣の確立	読書指導の推進	情報提供、時間の設定により読書意欲を高め、読書の習慣を身に付けさせる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「図書館便り」「麒麟児」「碧落」を発行し、情報提供を頻繁にする。</li> <li>・年2回「朝の読書」週間を設ける。</li> <li>・生徒図書委員会の活動を活発にする。</li> </ul>	B (3.2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報紙の発行、掲示板や学校放送を利用した情報提供を生徒委員会が活発に行った。</li> <li>・休校や部分開館の影響が貸し出し冊数は減少。全面開館に向けて、来年度は授業やLHRでの利用をさらに増やしたい。</li> </ul>
	学習活動支援の充実	被災した蔵書や設備の復旧	蔵書や設備の復旧作業を速やかに進める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・復旧作業を進めながら、貸し出しや学習等、生徒が使いやすいレイアウトを工夫する。</li> </ul>	B (3.3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期は落下図書の整理作業、部分開館。夏休み末に天井・壁修理完了。年度末に大型書架納品完了。4月には全面開館ができるよう準備をすすめる。</li> </ul>
保護	同心会（PTA）と	連携を深め、円滑な校務運営を行うため	保護者への情報提供に努め、本校教育への理解と協力	ホームページ更新者を増員して全体的に情報を集め更新回数を増や	B (3.1)	ホームページ更新者は増員できたが、機能していない部分がある。

者との連携	学校の積極的な連携・協力	の情報提供	を得る。	し、外部に発信する。		組織的に取り組む必要がある。
		P T A 活動の活性化	同心会総会や学校行事等への参加者を増やし、総会（報告会を合わせて）の出席率を80%以上とする。	『同心』や一斉メールを活用し、会員の同心会行事への参加を促す。	B (3.2)	一斉メールは地震の対応に機能した。保護者への連絡や給付型奨学金等の連絡など発信する回数が増えた。

<p>4 学校関係者評価</p> <p>1 自己評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・建学の精神である三綱領に基づいた質の高い教育実践のために、校長先生を中心に諸先生方が一丸となり日々努力しておられる姿が見え、先生方の教育指導、生徒指導への尽力に感心している。授業を見させていただいて、教え方のうまさにも感心した。</li> <li>・文武両道がさらに進化していくために、生徒一人一人が自分で一日の時間配分を考え、メリハリある生活を継続していくことが何より大切だと感じた。</li> <li>・学習態度を身につけさせるためには生活の見直しが不可欠で、基本的な生活習慣の確立が最重要課題である、という3年部の言葉に今の高校教育の難しさを感じた。先生方はよく頑張っている。</li> <li>・コミュニケーションの第一歩である挨拶をはじめとした基本的な生活習慣を確立させ、社会に出てからも人とつながる力を発揮し各々の夢を実現して欲しい。</li> <li>・自転車の乗り方はマナーが良い。道を譲られて軽く会釈をする生徒を多く見かける。先生と保護者の努力の成果だと感じる。</li> <li>・年2回の生徒による授業評価が具体的にどういう内容か知りたい。また日々の課題も多いと思うが、教科担任だけでなく担任も情報を共有できるシステムになっているのか聞きたい。</li> <li>・読書に親しむ項目が毎回低いのが気になる。昨年も2年生で落ち込み3年生でやや持ち直す、やはり部活動の影響だろうか。</li> <li>・学校全体の取組や工夫は評価できるものであり、問題点も具体的なもので、来年度に改善されることが期待できる。学校全体でこれまで以上に改善に向けて取り組んでいただいているが、保護者の一部の意見として、先生個人の指導力や意識の格差が大きいという声も聞いたことがある。生徒の学習意欲は先生方の言葉一つで高まるので今後とも御指導を宜しくお願いします。</li> <li>・S G の成果発表会は素晴らしい内容だと感じた。ただディベートは「出来レース」のようで、もっと生の雰囲気、実態が知りたい。高校から様々な課題に対し研究し発表する力を付けるのは素晴らしいことである。</li> <li>・本年度は熊本地震で先生方も被災されたにもかかわらず、地震で遅れた分を取り戻すべく尽力いただき、また心のケアにも対応していただき感謝している。</li> </ul> <p>2 次年度への課題・改善への方向について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・難関大学への合格率をアップさせて欲しい。</li> <li>・課外授業は全員必要とは思わない。自らの力で実践して成果を出せるにこしたことはない、例えばトップ何人かは自由参加にして試験毎に入れ替えるとかでモチベーションを高めるのも良いと思う。</li> <li>・学校、家庭、地域が一体となった教育という観点から、ボランティアなどでの地域との交流、保護者の支援体制などできる範囲で見直していかれるのも良いと思う。</li> <li>・S G H で進路の幅が広がることを期待している。さらに学校全体の取組に広まればと感じた。</li> <li>・P T A からの連絡について、学校が出す一斉メールでは情報が不十分だったりプリントの配布が間際だった場合があった。P T A 会長が必ず原稿の事前確認できるよう早めをお願いしたい。</li> </ul>
---

## 5 総合評価

職員による4段階の評価に基づいて示した各評価項目に対する評価結果は、全て「B(3)」となり、違いが見えにくいので少数点以下一位までで比較する。平均すると3.1点であり、全体的にはおおむね達成できていると判断できる。各項目の評価は昨年と同様の傾向だが、「SGH事業の推進」と「学校の活性化」の項目が2点台でありよくない。SGH事業が一部の先生方に偏って行われており学校全体の取組となっていない、または職員生徒とも対象者以外に当事者意識を持たせられていない、という職員の意識の表れと感じている。学校全体としての取組を推進する必要性を感じている。

また、震災があった今年、安全管理や、今年設けた「震災後の生徒の心身の健康管理」のポイントが3.3と良かったことは、職員全体が意識して取り組んでいる現れであろう。

昨年度低かった「言語活動の充実」は0.2ポイント上昇した。先生方が言語活動をどう授業に取り込もうか試行錯誤をされ、少しずつ進展しているということではないか、と感じる。

また、「いじめの防止」に関して、年2回のアンケートで、いじめの報告があった場合に迅速に対応している事は職員は評価しているが、いじめ自体が無くなってはいないことは、課題として捉えている。また図書館教育のポイントが高かったのは、地震で被災し使用できない時期があったが、各方面からの図書贈呈等もあり、蔵書が充実したものとなったことを判断して点数が高くなっているものと思われる。今後とも読書習慣を身につけさせる活動を継続せねばならない。

## 6 次年度への課題・改善方策

SGH事業3年目、学校設定科目等も含め独自の教育課程およびコースを設定して2年となり、様々な事業に取り組んできた。このことは高い評価を受けている面もあるが、課題も出てきており、次年度はさらに、学校全体としての取組を工夫し、このことが、授業改善や学力向上、進路実績にもつながるよう、つまり学校の活性化に寄与する取組となるよう、仕掛けと工夫が必要である。そのためにも日々の授業において、言語活動の充実やアクティブ・ラーニング等の工夫により、新形態の大学入試にも対応できる学力を身につけさせ、一方で基礎学力を補償し、人間性を磨くための挨拶や清掃活動など、足下の学習指導、生徒指導を徹底していかねばならない。その結果として、社会に貢献できるグローバルリーダーの育成につなげる教育活動となろう。これまで培ってきた本校の進路指導や生徒指導の体制を再確認し、職員全体で当事者意識を持ってこれらの教育活動を推進していくことを、改善の方策としたい。